



令和5年はたちの集い

決意を胸に、思いを貫き突き進め！！

1月8日（日曜日）文化会館で「はたちの集い（旧成人式）」が執り行われ、54名が20歳の節目を迎えました。当日は男性15名と女性16名の総勢31名が会場に集まりました。本号では、式典の様子とインタビューについて紹介しています。

1月8日。今年は54名が20歳「はたち」という人生の大きな節目を迎え、大人への一步を踏み出しました。当日は、31名が会場に集まりました。今年から、成年年齢が18歳となったことで、「成人式」の名称も「はたちの集い」へと変更されました。

この日、会場の文化会館では華やかな晴れ着やスーツ姿の皆さんが久しぶりの再会を喜び、懐かしい顔を見つけ、和気あいあいと談笑する姿が見られました。また、友人や保護者・恩師と一緒に写真を撮るなど会場の雰囲気を楽しんでいました。

式典が幕を開け、来賓祝辞のあいさつでは真剣に構えつつも、記念行事では小中学校時代のショートムービーを笑顔で楽しむ姿など、厳かな場面と和やかな場面とのメリハリがぎいた雰囲気で行進されました。 菌田靖邦町長からは、「社会の一員として地域社会や日本の未来を担うという責任を自覚し、自らの判断と責任により行動すること、一日一日を大切に生きてほしい」と力強いメッセージが伝えられました。

来賓からの祝福や激励のメッセージを受けて、代表の下村優奈さんは「20歳という大きな節目を迎えることができましたのは、地域の方々をはじめ、先生方、家族や友人など今まで関わってくださった皆様のおかげです。これからはお世話になった皆様への感謝の気持ちを忘れずに、社会に貢献できるよう努めて参ります」と謝辞を述べました。

はたちの皆さまの紹介では、山下斉教育長から名前を読み上げられ、返事と共に立ち上がり一礼する姿が、ステージ上のモニターに映し出され、立派に成長した姿が会場で見守る保護者や関係者の目に映りました。

続く記念行事は赤石太鼓保存会の演奏で始まりました。恩師からの激励の言葉では、小中学校時代に二十歳になった自分に宛てて書いた手紙などサプライズプレゼントなどの演出があり、恥ずかしがりながらも笑顔がこぼれていました。

昨年に引き続き、マスク着用、間隔を開けた席の配置など感染症対策を徹底して行われた式典でした。今後は社会人としてさまざまな困難にぶつかることもありすが、自分の目標や夢に向かって頑張ってください。